

據聞ヘ詰マ體育大主張者ハ幾人アリテ、第一は福本氏、次に新潟二  
委員長、第三は農業ニテテ、水川平蔵也、第四は子共賀義也、第五は會  
不之水谷鶴太郎ハ、第六は朝日耕三郎矣、第七は其時新潟市内に在るハ、肺  
病院附属醫師院今浦吉吉、第八は南越崎本望良、第九は橘春江也、第十は神助  
喜良、第十一は中野義一也、第十二は高橋義一也、第十三は高橋義一也、

第十四は中野義一也、第十五は高橋義一也、第十六は高橋義一也、

大正廿二年十一月二十日

去ル十九日役附職工三名ヲ交渉委員中ヨリ選任シテ秘ニ今福  
工場ヘ福本氏ヲ訪問シ職工側ノ最低要求（既報ノ解雇手當三  
五日）ヲ提出シ其解決ニ盡力方ヲ懇願シタ、然シ福本氏ハ職  
工側ノ意ノ有ル處署承知シ居レバ會社側モ可及的ニ譲歩セ  
ンモ此場合從來ノ要求等ニ物泥セズ全然白紙主義ニヨリ只福  
本氏ヲ信賴セバ解決策ヲ計ラント答ヘタ、職工ハ此抽象的回  
答ニヨリ速刻其盡力方依頼ヲ明答シ得ズ明日ヲ約シテ其儘  
引揚ゲタノデアル、翌廿日今福ノ交渉ハ依然其範圍ヲ越エズ  
自分達ハ福本氏ヲ信賴スルモ全職工ハ之ニ同意セザル故此際  
委員ノ顔モ立ツ様ニト懇願シ會社側ノ最後ノ態度ヲ採ラント  
務メシモ福本氏ハ依然強硬ニ信賴主義ヲ以テ之ニ當ツタノデ  
アル、翌廿一日正午頃前記委員ノ他今回ノ爭議ノ首謀者デ委